

宿縁

七月号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七―三七二一〇二九二
FAX 〇四七―三七二一〇二六二

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

仏教は床の間文化 を生み出した



開く人もいない、つまり釈尊入滅後、時代がうつるにつれて次第に仏教が衰微していくさまを示したものです。

末法の時代を強く意識し、それ故にこそ阿弥陀仏の本願力による念仏の救い、往生浄土の教えが世の闇を照らし人々を救いに導くと示してくださいだったのが七高僧の一人中国の道綽(どうしゃく)禪師です。その功績を仰ぎ称えられた宗祖は「高僧和讃」に

濁世の起悪造罪は
暴風駛雨(しう)にことならず
諸仏これらをあわれみて
すすめて浄土に帰せしめり

(衆生が末法の世に起こすさまざまな罪悪は、暴風あるいは豪雨のようなものである。仏法に目覚めた仏がたはこれらを変衰れにおぼしめされて、すべての人が浄土に生まれたい、本当の幸せの宝を得てほしいと勧め願われている)と教えられました。

五濁とは、末法の時の五つの汚れです。

①劫濁(こうじよく)②見濁(けんじよく)③煩惱濁(ぼんのうじよく)④衆生濁(しゆじよく)⑤命濁(みやうじよく)の五種類の汚れがあげられています。①は、時代の汚れ、つまり戦争とか公害などを指します。②は、思想の汚れです。③は、貪り、怒り、憎しみ、あるいは愚かさ、それらの煩惱が盛んになる汚れです。④は、衆生の資質が低下することです。科学文明に侵されてひ弱な

人間になるともいえます。⑤は、命の汚れ、これは本来与えられている寿命を全うすることができないなどです。

これらの末法の世といえる認識は、日々耳目に入ってくる世間のありさまを見れば一目瞭然です。起こしてはならない戦争、狂暴化する犯罪、家庭の崩壊から生まれるむごい尊属殺人事件等は増加する一方です。

情報化時代に生きる宿命ともいえる苦しみと悲しみを感ぜずにはいられません。

今でもお仏壇のある家庭に育ったお年寄りには、「わしらの子供のころは、朝お仏壇にお参りをしなければご飯を食べさせてもらえなかったものです！」とお話しされます。しかしそれは昔のことの話で、今には続いていません。生活の軸がぶれ、即ち家庭の中心がなくなってしまうました。

「家庭」とは、夫婦や親子など生活を共にする小さな集団、及びその生活の場所のこと。「家族」とは異なり、生活する場や生活の拠り所、生活空間(住居)の雰囲気、生活を共にする共同体といった意味があります。

「家庭」とはすばらしい熟語だと思いますか？

庭のある家！住まいの空間です。たとえ庭がなくても住居には床の間が普通にありました。そしてその床の間は共に生活する人たちの間の空間をあらわしていました。

「間(ま)を置く」「間(ま)を持つ」「話は間(ま)が大切」などという言葉があるように、何事も間が必要で、間によって関係性や自分の位置も明らかになるものです。間があると心に落ち着きが出てまいります。かつて仏間はその中心に位置して、住む人たちの安らぎを与

えてきました。そして誰もが仏さまを主(あるじ)として敬いご挨拶しました。

近頃はお寺の本堂に入るときも出る時も頭を下げずにいる人の姿を多く見ます。本堂の中心はご本尊阿弥陀さまであることを忘れないようにしてください。

イスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリの書いた「サピエンス全史―文明の構造と人類の幸福」が世界中の人に読まれ、1200万部のベストセラーになっています。

内容を要約すると、7万年前アフリカの片隅で生きてゆくのが精いっぱいだったサピエンスが、全地球の主になって大きな力を手に入れても、誇れるものは生み出せず、一人一人の苦しみは減らなかったのが、人類250万年の歴史をひもといた答えだということです。その人類の歴史にはさまざまな宗教がかかりを持ったことを挙げ、下巻で『仏教』への期待を次のように記しています。

『苦は、神の気まぐれによって生じるのではなく、自分の中の渴愛から生じると、ゴータマ(釈尊)は悟った。快を経験すればさらにそれを渴愛し、不快を経験すればさらに渴愛する。渴愛は常に不満足をもたらし、心を不安定にする。これは、仏教徒にとって、神からの啓示ではなく、普遍的な自然の法則である。渴愛せずに現実があるがままに受け入れるために、「何を経験していたいか」ではなく「今何を経験しているか」に注意を向ける鍛錬、瞑想術を開発した。渴愛を消化すれば、完全な満足と平穩の涅槃が訪れる』と。末法は外からやってくる閉塞観ではなく、自らを静観する間(ま)を大切にするとところから開かれてくる内なる幸福への変革です。

【寺灯雑記】

○壮年会が王子布教所参拝

6/14

コロナ禍前より企画されていた、築地本願寺王子布教所への参拝がようやく実現しました。王子布教所は、それまで東京都北区に寺院が存在しなかったことから、「身近に親鸞聖人のみ教えが聞ける場所を」との思いによって、2017年に開設されたお寺です。

王子布教所では、正信偈のお勤めのあと、広島県出身の御住職より、設立までのご苦労やお仏具の謂れなどをお聞きし、坊守さんにも心温まるご歓待をいただきました。

その後、近所の飛鳥山公園に行き、渋沢栄一の史料館見学や園内に咲くアジサイを見ながら散策しました。程よく汗をかいたあとは、王子駅近くの居酒屋にて水分補給。王子布教所の大江ご住職にもご参加いただき、懇親を深めることができました。

大江ご住職は8月の盂蘭盆会法要にご出講予定です。



○六月の常例法座開催

6/18

常例法座（仏さまのお話）が開かれ、前田壽雄師（武蔵野大学教授）にお取り継ぎいただきました。阿弥陀さまのお救いのはたらきを、仏教から生まれた日常用語である「大丈夫」という言葉やご自身の経験した病気などを通してお話しくださいました。

また、参加者からの質問にもお答えいただき、浄土真宗と浄土宗における「お念仏」の味わいの違いを分かりやすく教えてくださいました。

【ブツダの教え 「お経」のことば】

「火宅の喩え（たとえ）」

さどりの岸に立って、迷いの海に沈んでいる人びとに呼びかける仏のことは、人びとの耳には容易に聞こえない。だから、仏は、自ら迷いの海に分け入って、救いの手段を講じた。

さて、それでは一つの比喻（たとえ）を説こう。

ある町に長者があつて、その家が火事になった。たまたま外にあつた長者は帰宅して驚き、子どもたちを呼んだが、彼らは遊びにふけて火に気づかず、家の中にとどまっていた。

父は子どもたちに向かって「子どもたちよ、逃げなさい、出なさい。」と叫んだが、子どもたちは父の呼び声に気がつかなかった。子どもたちの安否を気遣う父はこう叫んだ。

だー「子どもたちよ、ここに珍しいおもちゃがある。早く出て来て取るがよい。」子どもたちはおもちゃと聞いて勇み立ち、火の家から飛び出して災いから免れることができた。この世はまことに火の家である。ところが人びとは、家の燃えていることを知らず、焼け死ぬかも知れない恐れのないなかにある。だから、仏は大悲の心から限りなく様々に手段をめぐらして人びとを救う。

『法華経 譬喩品』

【六月の法要・法座・行事】

○婦人会法座

※七月一日(土) 午後一時

御文章(四帖第十二通) 前住職

○千葉組仏教婦人会連盟 公開講座

※七月二日(日) 十四時～十六時

場所：千葉県教育会館大ホール

千葉市中央区中央4-13-10

講題：「浄瑠璃 親鸞さまのご生涯と

恵信尼さま」

「金子みすゞ物語」の二本立て

参加費：無料、先着500名・自由席

※どなたでも予約なしで自由にご参加いただけます。

○壮年会法座

※七月九日(土) 午後三時

御文章解説(四帖十一通) 住職

○子育てサロン(パンダっ子)

※七月十日(月) 十一時～十四時

*親子一緒に遊び、語り合うサロンです。

○常例法座（仏さまのお話）

※七月二十三日(日) 午後一時

講師：前住職

○親鸞セミナー(浄土文類聚鈔を学ぶ)

※七月は休座、次回は八月二十六日開催

☆中原寺ファミリアパーティー

※七月三十日(日)

十三時三〇分 受付開始

十四時 開演

・人形劇「ぞうのはなはなぜながい」

「だんまりくらべ」

演：オフィスやまいも

・笑いヨガ

You Tubeなどで話題となっている笑いの健康体操です。身体的効果・心理的効果・生活改善効果・社会的効果があるとされていて、当日はインストラクターに教えていただきます。

・ビンゴ大会

十六時 終了予定

*今年もキッチンカーが出店決定！

国産無農薬レモンでつくったレモネードや水出しアイスコーヒ、かき氷のほか、軽食も販売予定です。

*参加のかたは事前にご連絡ください。

ぜひご家族、知人をお誘いください。

【七月の掲示板のことば】

不自由と

不幸とは違う